



島根大学研究・学術情報本部総合科学研究支援センター

< センター通信 >

第 42 号

2022(令和4)年 1月発行

Interdisciplinary Center for Science Research, Shimane University



記事内容

記事内容	1
総合科学研究支援センター活動概要報告	
遺伝子機能解析部門	2
実験動物部門	7
生体情報・RI 実験部門	10
物質機能分析部門	15
設備利用推進室	17
編集後記	18

◇ 遺伝子機能解析部門 ◇

遺伝子機能解析部門 令和3年6月-12月の活動と実施行事

<設備・機器の修理や新設>

部門 website に機器一覧，機器オンライン予約，お知らせ，申請書類ファイル，セミナー記録，技術講習会活動記録，ニュース、会議・講習会参加記などが掲載されています。最新情報は随時更新しています。ぜひご覧ください。 <http://shimane-u.org/index.htm>

機器のオンライン予約を行うためには，利用代表者のユーザーID およびパスワードが必要です。遺伝子機能解析部門事務までお問い合わせください。新たに予約オンライン化を希望される機器がございましたらご連絡ください。

中国地方バイオネットワーク受託サービスが行われています。中国5県の遺伝子関連施設が実施している受託サービスを利用することができます。詳しくは、中国地方バイオネットワーク連絡会議のHP (http://gene.yamaguchi-u.ac.jp/Chugoku_BNW_HP/index3.html) をご覧下さい。本遺伝子機能解析部門は共焦点レーザー顕微鏡観察受託サービスを担当しています。

ドライ真空ポンプ NeoDry 15E-C (312室) が導入されました (凍結乾燥機に装備)。

<行事>

機器談話会を開催しました。

令和3年7月30日(金) 「2021年度第1回 遺伝子機能解析部門機器談話会」

令和3年12月28日(火) 「2021年度第2回 遺伝子機能解析部門機器談話会」

利用説明会を開催しました。

令和3年10月27日(水) 「2021年度 遺伝子機能解析部門利用者説明会 (第4回)」

教育訓練を開催しました。

令和3年6月3日(木)～6月18日(金) 「放射線業務従事者再教育訓練 (e-learning)」

令和3年6月3日(木)～6月7日(月) 「放射線業務従事者新規登録者教育訓練 (Moodle)」

令和3年10月29日(金)～11月26日(金) 「放射線業務従事者新規登録者教育訓練 (Moodle)」

<公開講演会開催>

令和3年11月19日(金)

島根大学総合科学研究支援センター公開講演会

(第256回 遺伝子機能解析部門セミナー、第379回 細胞工学研究会)

「日本の養液栽培・・・その可能性と課題」

浅尾俊樹 (島根大学学術研究院農生命科学系)

<技術講習会開催>

第161回 令和3年6月3日(木)

「デジタルマイクロスコープ説明会」(オンライン)

第162回 令和3年10月22日(金)

- 「4K マイクロスコープ (VHX-8000) とレーザー元素分析ヘッド (EA-300) 説明会」(オンライン)
第 163 回 令和 3 年 11 月 29 日 (月)
「凍結乾燥機 (ドライ真空ポンプに更新) 説明会」
第 164 回 令和 3 年 12 月 1 日 (水)
「共焦点レーザー蛍光顕微鏡 (TCS SP5) 操作説明会 14」
第 165 回 令和 3 年 12 月 8 日 (水)
「オールインワン蛍光顕微鏡 (BZ-X700) 操作説明会 10」

<セミナー開催>

- 第 255 回 令和 3 年 11 月 5 日 (金)
(第 378 回 細胞工学研究会)
演題 1: 植物ホルモン・サイトカイニンによる植物成長制御
～長距離輸送と側鎖修飾の仕組みと役割～
木羽隆敏 氏 (名古屋大学大学院生命農学研究科)
演題 2: 植物の器官間シグナル伝達を介した鉄吸収制御
田畑 亮 氏 (名古屋大学大学院生命農学研究科)

- 第 256 回 令和 3 年 11 月 19 日 (金)
(第 379 回 細胞工学研究会、総合科学研究支援センター公開講演会)
「日本の養液栽培・・・その可能性と課題」
浅尾俊樹 (島根大学学術研究院農生命科学系)

<会議等報告>

令和 3 年度 大学等における放射線安全研修会および協議会総会 (R3. 9. 10) オンライン

令和 2 年度と同様に本年度 (令和 3 年度) もオンラインで開催されました。簡単な報告をします。

<大学等放射線施設協議会 令和 3 年度総会>

会長挨拶、理事会役員紹介の後、令和 2 年度事業報告、令和 2 年度会計報告が行われ、引き続き協議事項に移りました。次期役員、令和 3 年度事業計画案、令和 3 年度予算案、細則の変更案が協議され、いずれも承認されました。

<令和 3 年度 大学等における放射線安全研修会> プログラム

- ・「放射線測定器の点検と校正」
大学等放射線施設協議会顧問 中村尚司
- ・「学内従事者情報に関する管理体制についてアンケートのまとめ」
大学等放射線施設協議会会長 渡部浩司
- ・「放射線規制に対する疑問点・非合理的な事例収集ご協力のお願い」
大学等放射線施設協議会会長 渡部浩司

・「大学等放射線施設協議会 活動報告」

・「閉会の辞」

大学等放射線施設協議会会長 渡部浩司

「放射線測定器の点検と校正」では、今後法律に改正予定の「放射線測定機器については、点検及び校正を1年毎に適切に組み合わせて行うこと」について、様々な測定器の例が取りあげられ説明が行われました。質問・回答など知りたい方は中川までお問い合わせください。

「学内従事者情報に関する管理体制についてアンケートのまとめ」では、管理部署、管理方法、全学一元管理が行われているか、などの調査が行われました。事業所（事業場）単位が多く、全学一元も3割程度で行われていること、紙ベースの管理が多く、それに伴い事務負担が大きいこと、（他機関や事業所間で）管理項目や様式が異なることでやりとり手間がかかることがある、などが紹介されました。アンケート結果の詳細と分析が後日公開される予定です。「放射線規制に対する疑問点・非合理的な事例収集ご協力のお願い」では、放射線施設として原子力規制庁に要望したいことを募ることが案内されました。後日アンケートの依頼が行われる予定です。

（中川）

第37回全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会総会（R3.11.19）オンライン

標記総会と安全研修会に参加しました。今回は当番校沖縄科学技術大学院大学によるオンラインで開催されました。資料は中川が保管しています。ご覧になりたい方は中川までお知らせ下さい。

9:30～12:00 総会

13:00～16:00 安全研修会

「遺伝子組換え生物と病原体の総合的な安全管理を目指して」

<第37回 全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会 総会>

1) 新規会員等の参加承認

正会員：独立行政法人 酒類総合研究所

十文字学園女子大学

企業会員：日本新薬株式会社

暫定会員：酪農学園大学

一般社団法人バイオロジクス研究トレーニングセンター

2) 文部科学省施策説明

(1) カルタヘナ法について

文部科学省研究振興局ライフサイエンス課生命倫理・安全対策室専門職

田崎 美央

表の改正について、「科学的知見により」という文言追加画行われているが、論文

や過去の実績に基づいて共通認識ができているものとの説明があった。

ゲノム編集について、核酸移入のあるなし、核酸残存のあるなし、で適切な対応を行うことが説明された。核酸移入なしや核酸残存なしの場合は事前打ち合わせの後に主務官庁に届出連絡し、情報提供を行うことが説明された。

その他、組換え DNA や関連実験について不明な点や判断に迷う点があれば文部科学省ライフサイエンス課に問い合わせをしていただくのが望ましいと思われる。

(2) 学術研究に関する政策の動向について

文部科学省研究振興局大学基盤整備課 研究設備係長・研究支援係長

中村 卓

大学研究力強化委員会設置が報告され、大学ファンド、地域の中核となる大学の機能強化、若手研究者の活躍促進について説明が行われた。

3) 事業報告

(1) クラウド方会員管理・会計管理システムの導入

古関 直子（東京農工大学 事務局）

(2) 第 13 回 遺伝子組換え実験安全研修会

西内 巧（金沢大学 副代表幹事）

遺伝子機能解析部門ウェブサイトの「参加記」で報告しました。

4) 委員会等報告

(1) 幹事会

(2) 広報委員会

(3) 組換え生物等委員会

(4) 教育教材ワーキンググループ

「遺伝子組換え生物等の使用等に関する問題集」公開、英語版動画の公開予定（令和 4 年度公開予定）が報告された。

(5) Gene Drive ワーキンググループ

(6) 続・ゲノム編集ワーキンググループ

(7) 組換えカビ・キノコ・コケ等の拡散防止措置ワーキンググループ

(8) 実施計画書書式・審査検討ワーキンググループ

(9) 将来構想ワーキンググループ

会の名称変更、会則変更などを議論し提案

5) 会則の変更について

遺伝子組換え実験安全管理に重点を置く会へとシフトするため、会の名称、会員種別、役員、総会の形態を変更することが提案され承認された。

名称は「遺伝子研究安全管理協議会」、略称「遺伝子協」、英語名称「Association for Promotion of Genetic Studies in Japan (APGS)」となった。2022 年 4 月 1 日より発足。

6) 委員会について

新しい「遺伝子協」では、以下の委員会と新たに分科会を置くことになった。

委員会

- ・組換え生物等委員会 各種組換え生物部会（細菌部会、ウイルス部会、菌類部会、動物部会、植物部会、第一種使用部会）を設置
- ・審査手続き等件等委員会
- ・教育教材開発委員会
- ・将来構想委員会

分科会

- ・共同利用機器分科会

7) 決算報告

8) 事業計画、予算案

9) 中間報告の廃止（中間決算報告の廃止）

10) その他の議事

今回の総会と安全研修会は、は2022年11月18日（金）に千里ライフサイエンスセンターで開催の予定です。

<安全研修会>

遺伝子組換え生物と病原体の総合的な安全管理を目指して

- ・「感染症法について」

前川 秀彰（BMSA）

- ・「実験室バイオセーフティ：バイオリスクマネジメント」

杉山 和良（国立感染症研究所名誉所員）

- ・「生物学用安全キャビネットの構造・機能」

小野 恵一（株式会社日立産機システム）

- ・「遺伝子組換えキノコ類の拡散防止措置」

鈴木 智大（宇都宮大学）

- ・「遺伝子組換え実験の管理と委員会運営について」

西内 巧（金沢大学）

- ・「OISTにおけるバイオセーフティへの取り組み」

田中俊憲（OIST）

（中川）

<その他>

令和3年12月22日

遺伝子機能解析部門で開発され理研バイオリソース研究センター実験植物開発室に寄託されていた植物ベクターが理研BRC Exp-Plantカタログで公開されました。

https://epd.brc.riken.jp/ja/resource/catalog_plantm

◇ 実験動物部門 ◇

< 改修工事のお知らせとお願い >

現在、出雲キャンパスにおいて RI・動物実験施設棟 I 期の改修工事が行われており、動物実験に関して多くの制限をお願いしていますが、研究者および関係者の方々のご協力により、これまでのところ順調に進んでいます。ご協力を深く感謝いたします。

動物実験施設棟 II 期および III 期の改修工事につきましても、令和3年度の補正予算において承認され、令和4年度に実施する運びとなりました。関係者の方々には、引続きご不便をおかけいたしますが、改修工事完成の暁にはきれいになった施設でこれまで以上の研究成果を上げていただけるものと確信いたしております。今後の計画につきましては、令和4年3月以降、具体化したところから順次ご説明させていただきます。今後ともご協力をお願いいたします。

< 行事予定 >

・新規利用者講習会

すべて職員、学生、留学生が新規に実験動物部門を利用される際は、新規利用者講習会を受講する必要があります。

出雲キャンパスの新規利用者講習会は原則として、毎月の最終木曜日ですが、ご都合の悪い場合は相談ください。なお、受講に関しては事前に申し込みいただきますようお願いいたします。

・動物実験施設棟 I 期改修工事後の施設使用説明会

動物実験施設棟 I 期の改修工事が3月に終了の予定ですが、上記のとおり間もなく II 期・III 期工事が開始されます。II 期・III 期工事期間を踏まえて動物実験施設の運用について3月に説明会を開催いたしますので、利用者の方は参加をお願いします。

< お願い >

・動物実験計画承認申請書の提出について

動物実験を開始するにあたり動物実験計画承認申請書を提出していただいています。近年、世界的に動物実験・実験動物飼養に関する規制や指針が厳しくなっており、国内においても 2019 年に動物愛護法が改正され、それらとハーモナイズさせるために指針の見直しが進んでいます。こうした背景から、昨年より本学の申請書においても書式を変更し、従来よりも踏み込んだ内容を記載するようにお願いいたしております。

申請者のご理解を容易にすることと作業効率を考え、動物実験専門委員会による審査の前に実験動物部門で予備審査を行うこととしています。Word ファイルで申請書案を送付していただくと、コメントや修正案を付して返信いたします。場合によっては、背景や状況の確認などで何度もやり取りをさせていただきますが、ご理解いただけますと幸いです。

なお、現在、多くの国際雑誌で動物実験の結果を投稿する際に ARRIVE ガイドラインを参照して記載すべきとされており、国内の指針においても推奨しています。投稿論文に記載すべき事項は動物実験計画書で検討すべき事項となりますので、是非ご一読ください。

<https://arriveguidelines.org/arrive-guidelines>

従来の動物実験計画承認申請書との変更点について、下記に記します。

- ① 新)動物実験計画承認申請書の申請区分が新規・継続・変更の3区分になったことにより、従来の動物実験計画変更承認申請書がなくなりました。
- ② 今まで軽微な変更については審査なく承認してきましたが、この度申請書が新書式になったことにより、旧)動物実験計画承認申請書で承認された計画については、軽微な変更であっても新書式に記載し直していただき、審査の対象となります。(新書式で承認された申請書については、軽微な変更であれば審査なく承認されます。実験処置などの追加等ある場合は、審査の対象となります。)
- ③ 新)動物実験計画承認申請書については、病原体等取扱、遺伝子組み換え実験、麻薬および向精神薬の使用についての項目が追加されました。病原体等取扱実験、遺伝子組換え実験をされる場合、それぞれの委員会へ申請をお願いいたします。
- ④ 繁殖する動物については、今まで繁殖の申請書を別に提出していただいていたのですが、同じ申請書に記載していただくことが可能となりました。今まで通り、繁殖のみの申請も可能です。

・動物実験飼育関連申請書書式の改訂について

実験動物部門に提出していただく書式について見直しを行いました。提出にあたりましては、最新の書式を使用させていただきますようお願いいたします。

動物実験計画承認申請書および各種申込用紙は下記よりダウンロードできます。

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/exanimal/index/application.htm>

ご不明な場合は、施設職員にご相談ください。

・有償のケージ交換について

新型コロナウイルス感染が継続しており、臨床業務に従事されている利用者でケージ交換などができなくなる恐れが続いています。主に臨床系講座を対象に、ご希望に応じて動物施設職員が有償にてケージ交換を行います(料金等については要相談)。詳しくは、施設職員にご相談ください。

・実験動物の購入について

実験動物の購入申込書は、入荷希望日の1週間前までに提出してください。また、搬入の際にも事前に申請書の提出が必要です。ご不明な点は施設職員までお尋ねください。

・ケージ交換について

衛生管理上、床敷ケージの場合は週に1度、金網ケージ飼育の場合は2週間に1度のケージ交換、ケージ蓋は1ヶ月に1度の交換をお願いします。また、ケージ交換時には、消毒液に浸した雑巾で、ラックの床面、側面、天井、扉などの拭き取り消毒をお願いします。

・飼育匹数の記入について

研究者の方に飼育匹数の報告をしていただいています。これは、法令・指針で求められている公表データ作成のための管理資料となります。また当部門からの飼料・飼育管理料請求額の算出根拠となるため、正確な飼育数をご記入ください。

・実験動物およびケージ等の講座への運搬について

実験動物を生きた個体のまま講座へ移動する場合は、ケージにフィルターキャップをかけた後、当部門受付に置いてある運搬用ケースに入れて移動させてください。運搬用ケースは数に限りがあるため、使用後はできるだけ速やかにご返却ください。講座で準備されたダンボール等を運搬用ケースとして使用することもできます。

講座から使用後のケージ、動物の屠体等を当部門へ運搬・返却する場合も同様をお願いいたします。

◇ 生体情報・RI 実験部門 ◇

<令和3年 7月～12月 行事報告>

- 7月 9日 生体情報・RI 実験部門運営委員会
Web 会議
時 間：11:00～12:00
- 7月 21日 第43回生体情報・RI 実験部門 運営懇談会
Web 会議
時 間：17:00～17:15
- 9月 22日 第44回生体情報・RI 実験部門 運営懇談会
Web 会議
時 間：17:00～17:10
- 10月 20日 放射線業務従事者の登録更新教育訓練
Web 講習
時 間：15:00～16:00
- 10月 21日 放射線業務従事者の登録更新教育訓練
Web 講習
時 間：17:30～18:30
- 10月 27日 細胞外フラックスアナライザー（XF HS mini）使用者説明会
場 所：第二共同研究棟2階 レーザー顕微鏡室
時 間：15:00～16:30
- 11月 12日 細胞外フラックスアナライザー（XF HS mini）使用者説明会
Web 講習
時 間：14:00～15:30
- 11月 16日 細胞外フラックスアナライザー（XF HS mini）使用者説明会
Web 講習
時 間：17:00～18:30
- 11月 24日 第45回生体情報・RI 実験部門 運営懇談会
Web 会議
時 間：17:00～17:20

<令和3年 1月以降 行事予定>

- 1月 26日 第46回生体情報・RI 実験部門 運営懇談会
Web 会議
時 間：17:00～
- 3月 中旬 第47回生体情報・RI 実験部門 運営懇談会
Web 会議
時 間：17:00～

<第1種衛生管理者試験 受験報告>

山口茜が第1種衛生管理者の資格取得のため受験し、合格しました。

月 日：令和3年8月13日

場 所：島根県民会館

受験者：山口茜

<令和3年度 島根県原子力防災基礎研修 参加報告>

島根県の原子力防災訓練のために、堺弘道が講師として参加してきました。

月 日：令和2年8月2, 16日

主 催：公益財団法人原子力安全技術センター

場 所：島根県松江市くにびきメッセ

内 容：(1) 放射線と放射能の基礎知識

(2) 原子力防災について

(3) 被ばく防護の考え方

(4) 放射線測定器等の取扱い実習

実習1：防護服等の着脱

実習2：空間線量率の測定（ γ 線）

実習3：個人線量計の取扱い

実習4：汚染検査と簡易除染

実習5：自然放射線（ α 線, β 線）

講師：堺弘道

<令和3年度 大学等における放射線安全管理研修会 参加報告>

令和5年10月1日改正予定の放射性同位元素等の規制に関する法律施行規則に関連して、「測定の信頼性確保について」の情報を得るため、令和3年度大学等における放射線安全管理研修会に甲高彩華と吉川光寛が参加しました。

月 日：令和3年9月10日

主 催：大学等放射線施設協議会

場 所：zoom ウェビナーを用いたライブ配信（WEB開催）

内 容：『放射線測定器の点検と校正』

『放射線規制に対する疑問点・非合理的な事例収集ご協力のお願ひ』

大学等放射線施設協議会 活動報告

参加者：甲高彩華、吉川光寛

<令和3年度 放射性同位元素等取扱施設安全管理担当教職員研修 参加報告>

放射性同位元素取扱施設の管理・運営に関わる技術及び知識の向上を目的として、甲高彩華と吉川光寛が研修に参加しました。

月 日：令和3年11月11、12日

主催：北海道大学アイソトープ総合センター、東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター、東京大学アイソトープ総合センター、名古屋大学アイソトープ総合センター、京都大学環境安全保健機構附属放射性同位元素総合センター、大阪大学放射線科学基盤機構附属ラジオアイソトープ総合センター、九州大学アイソトープ統合安全管理センター

開催方式：オンライン

内容：(1) 特別講演

1. 放射線安全規制の最新動向
2. 新元素の探索

(2) 講義

1. 医療分野における放射線安全管理について
2. 九州大学におけるタンデム加速器装置の廃止と新設

(3) 実習

1. VRを利用した医療現場における 外部放射線防護の原則理解
2. 被ばく線量の推定および健康リスク評価演習
3. 受講生グループ討論会

参加者：吉川光寛、甲高彩華

【研修会の資料は、RI 実験施設の RI 管理室に保管されていますので、ご覧になりたい方は出雲キャンパス内線 2374 までご連絡ください。】

<令和3年度 島根県防災業務関係者研修（バス・タクシー運転業者向け） 参加報告>

島根原子力発電所事故に起因する原子力災害発生時に住民輸送に協力する民間のバス・タクシー運転業者に対する研修のために、堺弘道と甲高彩華が講師として参加してきました。

月 日：令和3年12月9、10日

主 催：公益財団法人原子力安全技術センター

場 所：くにびきメッセ（松江市，12/9）、石央文化ホール（浜田市，12/10）

内 容：(1) 放射線防護のために必要な基礎知識

(2) 住民防護活動の概要と防護措置

(3) 島根県からの説明（島根県におけるバス運行の要請要領など）

(4) 放射線測定器等の実習取扱い実習

実習1：距離による減衰効果、遮へい効果の確認

実習2：身の回りの放射性物質の確認

実習3：電子式個人線量計の取扱

実習4：防護装備の装着及び脱衣

講師：堺弘道、甲高彩華

＜生体情報・RI 実験部門運営懇談会＞

生体情報・RI 実験部門運営懇談会（1年間に6回開催）は第46回を1月26日に開催する予定です。後日、議事録要旨を生体情報・RI 実験部門に使用登録されている方へ配信します。

第45回までの議事録要旨をご覧になりたい方は、生体情報・RI 実験部門の問い合わせ先（メールアドレス：seitairi@med.shimane-u.ac.jp）へお申し込み下さい。議事録要旨の電子ファイル（Word 文書ファイル）をメール添付でお送りします。

＜生体情報・RI 実験部門の設備・機器を利用される方へ＞

当部門の設備・機器を利用される方には、年度初めに分野毎に利用者登録をお願いしています。利用者登録に必要な申請用紙は、部門ウェブサイト上生体情報・RI 実験部門 HP (<https://www.med.shimane-u.ac.jp/CRLHP/index.html>) に電子ファイル（Word 文書、pdf ファイル）として用意されています。該当する分野の利用申請用紙を HP 上の「各種申請書ダウンロード」よりダウンロードして必要事項を記入の上、各分野の担当者へ印刷紙でご提出下さい。

高速超遠心機や高圧滅菌装置など一部の実験機器においては、初めて利用する方には必ず分野内の担当職員から操作方法の指導を受けていただくようにルールが定められています。

危険防止と快適な実験室環境を保つために、実験機器の取り扱い上の注意事項を遵守して、安全な取り扱いに十分留意していただくようお願いいたします。

また、使用済みの溶液などは放置せず必ず持ち帰って下さい。特に毒物・劇物に指定されている化学物質の使用に際しては、安全管理のために定められたルールに従って取り扱うようにご注意下さい。

機器を利用する際には、必ず各機器指定の使用簿に必要な事項を記入して下さい。一部の機器においては利用料金の負担をお願いしています。利用料金は四半期毎に各分野別に集計し、利用者の所属する講座等へ会計課を通して共通経費執行済額通知書が送られますので、講座等の経費からお支払いいただきます。

＜共同利用機器の制御用パソコンを安全に使用するために＞

部門に整備されている機器の多くには制御用パソコンが備えられています。機器を操作するためのパソコンでは、機器の操作に必要なプログラム以外は絶対に実行しないようお願いいたします。測定機器のメンテナンス、解析ツールの更新、パソコンの機能追加・変更などが必要な場合は、必ず担当職員にお問い合わせ下さい。

測定機器のパソコン HD に保存された計測データファイルの持ち出しに、USB フラッシュメモリ等の取り外し可能な外部記憶装置を使用する場合は、前もって利用者の責任において必ずウイルス検知・駆除ツールを用いて、安全性が確認された記憶装置をお使い下さい。

パソコンの動作がおかしい？ と思われた場合は、できる限り現状を保存して、担当職員へお知らせいただくようお願いいたします。

<オンラインによる機器予約システムについて>

生体情報・RI 実験部門に設置されている多くの機器は共同でご利用いただくため、一部の機器に関しては予約のための「オンライン機器予約システム (<https://www.med.shimane-u.ac.jp/CRLHP/reservation.html>)」を導入しています。予約システムにて予約必要な機器の確認をお願いします。なお、「オンライン機器予約システム」へのログインにはユーザーID とパスワードの入力が必要です。登録に関しては、原技術職員（内線 3061）まで問い合わせ下さい。

<問い合わせ窓口>

①細胞解析分野・遺伝子解析分野・生体制御解析分野に関する問い合わせ先

【松本健一】 e-mail : matumoto@med.shimane-u.ac.jp

電話 : 0853-20-2248 (内線 : 2248)

②フォトセンター・構造解析分野・RI 実験施設に関する問い合わせ先

【堺弘道】 e-mail : hisakai@med.shimane-u.ac.jp

電話 : 0853-20-2524 (内線 : 2524)

お気軽に問い合わせください。

◇ 物質機能分析部門 ◇

【お知らせ】

液体窒素料金の改定について【予告】

本部門では、大型貯槽タンクに一括購入した液体窒素を各研究者の窒素デュワーに個別に充填する形で供給してまいりました。タンクに溜めた窒素をしているため利用量が減少すると貯蔵に係る損失（蒸発）が大きくなり供給効率が悪くなります。昨今の機器の更新などにより、液体窒素を必要とする機器が減少し大口の利用者が無くなってきております。数年前までは年間約 2 万リットルあった利用量が本年度はついに約 1 万リットルと半減致しました。令和 2 年度の改定で、供給価格 160 円/ℓを基本とした料金体系とさせていただいておりましたが、現状の価格のままでは供給体制の維持が困難となってまいりました。

現在令和 4 年度に向けて料金体系の見直しを行っております。令和 2 年度に改定したばかりでご迷惑をお掛けしますが、安定した供給体制を維持するためには止むを得ない状況です。ご理解ご協力のほどよろしくごお願い申し上げます。ご不明な点やご質問等ございましたら、西郡 (shijo@riko.shimane-u.ac.jp) までお願いいたします。

<令和 3 年 7 月～令和 4 年 1 月 行事報告>

会議等参加

令和 3 年度 国立大学法人機器・分析センター協議会

日時：令和 3 年 10 月 15 日（金） オンライン開催

「令和 3 年度 国立大学法人機器・分析センター協議会」参加報告

国立大学法人機器・分析センター協議会は、全国 48 の国立大学・機器分析関連センターおよび大学共同利用機関の代表が集まり毎年開かれている協議会です。横浜国立大学が幹事校でしたが残念ですが昨年に引き続きオンラインでの開催となりました。プログラムは文部科学省・大学研究基盤整備課長からの「学術研究政策に関わる最近の動向」に係る基調講演とそれに続く 3 件の講演「大学における教育研究を支えるヒトとモノ」(筑波大学)、「研究力強化のための技術者（技術職員）の必要性について」(東京工業大学)、「地方国立大学「佐賀大学」における研究基盤整備のための取組と課題」(佐賀大学)、参加校の研究設備の現状に関するアンケートの結果報告等があり、活発に議論・意見交換が行われました。

基調講演では第 4 期中期目標期間に向けて国立大学に期待する役割と運営交付金の考え方、設備マスタープラン策定の重要性、令和 2 年度から話題となっていた「研究整備・機器の共用化のためのガ

イドライン」策定についての現状などのお話がありました。今後の大学における機器の共用に関してもこのお話の方向性に沿った形が求められていくと考えます。その意味でも大変参考となる会となりました。

次年度は愛媛大学が幹事校です。コロナが収束して対面での開催が行えますようお願いしております。

(文責 西郡)

◇ 設備利用推進室 ◇

【お知らせ】

本学の研究設備を広く開放する目的で総合科学研究支援センター・設備利用推進室が新規に開設した「設備共同利用」のウェブサイトについてお知らせいたします。

本サイトは、共同利用施設である総合科学研究支援センターだけでなく、総合理工学部や生物資源科学部などの各部局にある機器についても情報を提供し、学内・学外の研究者・企業に広く開放するもので、本学の研究の推進および大学資産の有効活用に資するものです。是非ともご訪問いただき、有効にご活用いただければ幸いです。また、今後 本学に導入される機器を中心に共同利用に供する機器も充実させていきたいと考えております。皆様のご協力をお願いするとともに、より良い体制が築けるよう、ご意見ご希望等寄せていただけますと喜びます。

「設備共同利用」のホームページ URL

https://susc1016.riko.shimane-u.ac.jp/~open_facility/

鳥根大学ホームページ 総合科学研究支援センター 1016

機器共同利用

鳥根大学 総合科学研究支援センター
設備利用推進室
Open Facility Promotion Office

トップページ 共同利用機器について 共同利用機器一覧 (松江地区) 設備利用推進室について お問い合わせ

Reliability Analysis Technology

このページでは、
大学が保有する実験設備を有効活用し研究の活性化および地域への貢献に資するべく、学内の教職員、学生、研究員はもちろんのこと、学外の研究者や企業の研究・開発者の方々にもご利用いただけるサービスを提供いたします。

ご利用できる方々

- ・本学の教職員および研究員
- ・本学の学部学生、大学院生、その他本学に命字している者
- ・学術研究のために設備を利用する他大学又は公的機関に所属する研究者
- ・研究開発のために設備を利用する民間企業・法人などに所属する研究者、開発者

MENU

トップページ
共同利用機器について
共同利用機器一覧 (松江地区)
設備利用推進室について
お問い合わせ

お探しの一覧
選択してください

＜ 島根大学研究・学術情報本部総合科学研究支援センター ＞
センター通信 第 42 号（2022 年 1 月）

◇ 編集後記 ◇

総合科学研究支援センター広報誌「センター通信」第 42 号を発行しました。
センター通信を通じて、有意義な情報発信ができるよう努めたいと思います。
誌面充実のために、学内の技術、装置の紹介など幅広い範囲の原稿を
募集しています。掲載ご希望の方は下記編集担当へお問い合わせください。
「センター通信」の発行には多くの方々のご協力をいただきました。
ご助力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

2022 年 1 月

編集担当: 林泰輔

総合科学研究支援センター 物質機能分析部門

問い合わせ先: thayashi@riko.shimane-u.ac.jp